

## 令和4年度全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 長尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

| 教科に関する調査(国語、算数、理科)                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等<br>②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査                       |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

### 3. 教科に関する調査結果の概要

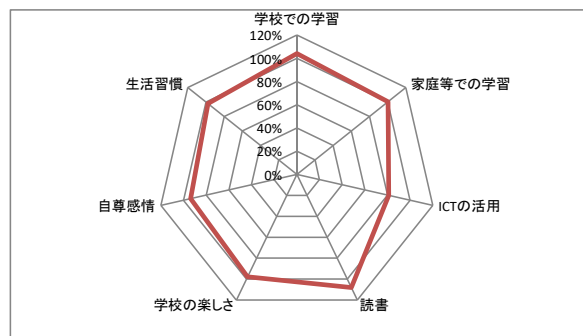
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 算数    |       | 理科    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 8.9   | 64    | 9.8   | 61    | 10.4  | 61    |
| 全国     | 9.2   | 66    | 10.1  | 63    | 10.8  | 63    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |                                                                                                        |                       |
|----|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均を上回っている。しかし、「書くこと」「読むこと」の領域では、全国平均を下回っている。「知識・技能」の中では「短答式(漢字)」の問題の正答率が低かった。       | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題                                                                               |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題・漢字を文の中で正しく使う問題                                                     |                       |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | ほとんどの領域で全国平均と同程度であるが、「変化と関係」の領域では全国平均を下回っている。「知識・技能」の中では「短答式(計算)」の問題の正答率が低かった。また、「割合」に関する問題では無回答が目立った。 | 全国平均正答率との比較<br>同程度である |
|    | よくできた問題     | 示された場面を解釈し、除法でもとめることができる理由を記述する問題                                                                      |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 百分率で表された割合について、「分数で表す」「比較量を求める」ことができるかどうかをみる問題                                                         |                       |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 全ての領域で全国平均を上回っている。しかし、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもちその内容を記述する問題の無回答率が高かった。                           | 全国平均正答率との比較<br>上回っている |
|    | よくできた問題     | 問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録する問題                                                         |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 実験器具(メスシリンダー)を理解し、器具の正しい扱い方を身に付けているか見る問題・結果を分析し自分の考えをもつ問題                                              |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○1日1時間以上読書をしている児童数が、全国の結果を大きく上回っている。朝自習の読書タイムや、一日中図書室を開放していることが子どもたちの読書活動を後押ししているものだと考える。</p> <p>○「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組により、1時間以上接触している児童の割合は減少した。</p> <p>○「自分にはよいところがある」と回答した児童が全国平均を下回っている。「北九州市子どもつながりプログラム」の積極的な活用を行い、自尊感情を高めるようにする。</p> <p>○ICT機器が勉強に役立つと考えている児童が多く、デジタルドリルを宿題等で活用している。しかし、学校の授業での使用頻度が少ないので今後増やしてい</p> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

授業の終末や自主学習、朝自習の時間に練習問題に取り組む活動を確保して、学習内容の習熟を図る。また、必要に応じてICT機器を活用するなど、補充的な学習に取り組む時間を設定し、「個別最適な学び」を充実させる。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

ゲームやスマホを1日1時間以上する児童が多いことから、家庭でルールをきめて使うように学校通信や学年通信で啓発を行う。  
GIGA端末を正しく使い、家庭での学習につながるようにする。